

2019年 春学期

社会科・公民科教育法 1 第8回

**社会科主題史(4)：当事者としての
「社会科主題史からの学び」を
振り返る**

自分が漠然と抱く記憶・思い出は 本当に正しいのだろうか？



先週はどんな一週間だったのか？

今日のテーマは「メタ認知」と「振り返り」



「振り返りジャーナル」について

テーマを自分で設定すること

※必ず、一番上の行に「～～？」という、
問いを立ててから書き始めてください。

※それ以外の感想なども
プラスして書いてOKです。

独自の問いを持ちながら、
授業に臨んでもらえると嬉しいです。

今日の授業の目的共有

1. **第5～7回の学習内容をザックリと振り返る。**
2. **学習者としての自分の学びの深まりor深まらなさをメタ認知する。**
3. **自己を対象としながら、「学びの深まりとは何か」について考える。**

今日の授業の目次

導入

フックトークの時間(15分)

【授業】

1. 【講義】ザックリと要約する第5～7回の授業
2. 【振り返り1】マインド・マッピング
3. 【振り返り2】「深まった」かを確認する
4. 【講義】教科書記述の分析の視点について

- ・次回までの課題についての説明
- ・振り返りジャーナルの時間

この授業の目指すコンセプト

1. 学びの「遊び感」を大切にする。
2. 学びの目的意識(≒納得感)を共有することを大切にする。
3. まだ知らない自分自身を再発見し続ける。振り返る。
4. 他者から学ぶ(チームを組む)×
リットを実感する。

自分でも気を付けます。

ブックトーク(15分間)

1. 齊藤の本紹介(1分)
2. 期限までに発表者数名の本紹介内容に対して、**2名分を選んで感想レポートを提出してください(200字とオススメ本)**
3. 今週の「ブックトークの情報共有ネットワークの構築プリント」を配ります。

今日の齊藤の一冊

本の表紙
(授業時のみ)

西岡志誠(2018)「読む力」と
「地頭力」がいきまに身につく
東大読書」

図書館や本屋のオススメ本を手にとってみよう

授業やいます

復習：初期社会科と山びこ学校

1947年・1951年

学習指導要領の試案が出され、
社会科の初めて理念が語られる。

【社会科の主な特徴】

- ・ **総合社会科**としての性格
- ・ 「**試案**」としての**教師の自主裁量**を重視
- ・ **身近な問題**や**社会的な問題**を扱う。



その後、総合社会科解体へ(1956年、1958年)

【第5回の授業の討論のテーマ】
「山びこ学校」は内容の系統性が弱い
という批判に賛成か反対か？

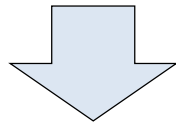
本の表紙
(授業時のみ)

無着成恭編
『山びこ学校』

復習:「楽しい授業」と「スパルタクスの反乱」

1960年代～1970年代

- ・教育の現代化の流れ、「分かる授業」
- ・反動としての受験競争・落ちこぼれ問題等



「**たのしい授業**」という言葉・理念の提案
→「分かるから楽しいのではなく、楽しいから分かるのだ」。

本の表紙
(授業時のみ)

【第6回の授業の討論のテーマ】

安井俊夫の「スパルタクスの反乱」の授業は、教育的意義を重視し、厳密に言えば客観的とは言えない部分もあるが、賛成か反対か？

板倉聖宣「楽しい
授業の思想」

復習：高校社会科解体から新学習指導要領へ

1989年

高等学校の社会科が地理歴史科・公民科に分離する(社会科解体)

社会科〇〇と〇〇科の違い

→「**社会認識を通して、公民的資質を育成する。**」

2017年(中学校)・2018年(高等学校)

学習指導要領の改訂

- ・主体的、対話的で深い学び
- ・教科固有の「見方・考え方」

→「**社会的見方・考え方**」は建前？本気？

【第7回の授業の討論のテーマ】

学問教育を強く主張する社会科教育廃止論者の意見に賛成ですか？反対ですか？

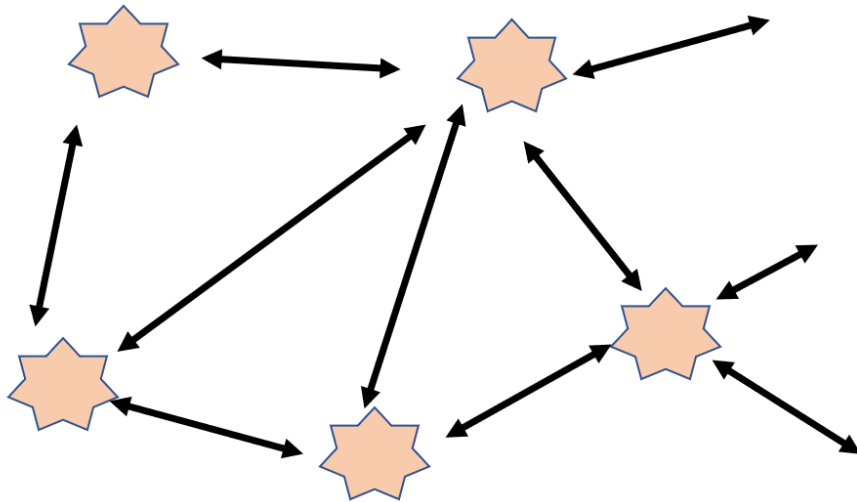
本の表紙
(授業時のみ)

文科省(2019)『中学校
学習指導要領(平成29
年告知)解説 社会編』

学びは深まったのか？

改めて、学びの深まりとは何か？

知識のネットワーク化？ 追究プロセスの連続性？



知識ベースの考え方？



主体性ベースの考え方？

メタ認知をしてみよう

メタ認知とは、一言で言ってしまえば、認知についての認知です。つまり、自分自身や他者の行う認知活動を意識化して、もう一段上からとらえることを意味します。いわば、頭の中にいて、冷静で客観的な判断をしてくれるもうひとりの自分のようなものです。(pp.14-15.)

本の表紙
(授業時のみ)

三宮真智子(2018)
)『メタ認知で〈学ぶ力〉
を高める』

振り返りとは？

振り返り ≠ 単に思い出すこと

振り返り ≠ 反省点、改善点を見出すこと

自分のこれまでの軌跡に対して、「**新たな価値づけ**」を
したい、漠然と抱いていたイメージと異なる「**見直し**」が
できるかどうかを考える。

今後の自分がどうしたいか(どうすべきか)を考える
未来志向なイメージを持ちたい。

【リフレクティブな思考】

「様々な側面から、様々な光を当てながら対象
を見つめられるように、それをひっくり返し、重
要な点を見落とすことがないようにすること」
(ジョン・テューイ)

デューイの
写真を掲載

マインドマップを作ろう

1. 「社会科らしい授業とは？」を中心に据えたコンセプトマップを完成させる。(15分)
2. 3人一組のグループになってアイデアをシェアしてみましょ。 (6分)

必ず使ってほしいキーワード

初期
社会科

山びこ
学校

楽しい
授業

わかる
授業

公民的
資質

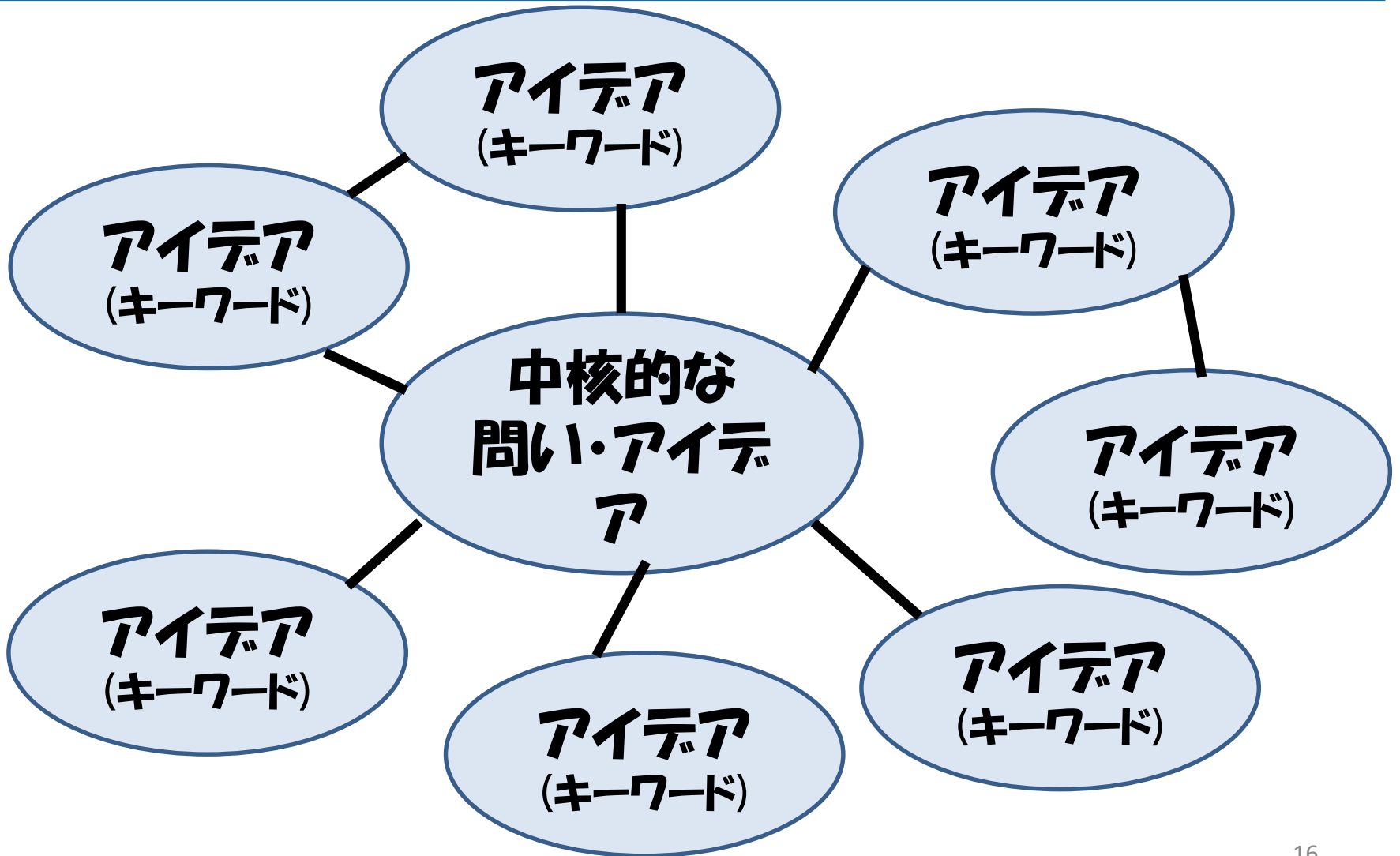
見方・
考え方

学問

スパル
タクス
の反乱

これらに新しい
キーワードを書き
足してください。

マインドマップを作ろう



マインドマップを作ろう

著書より、手書き資料を掲載

「深まった」かを確かめる

以下の質問に答えてください。

1. 率直にこの3時間の社会科主題史の授業で「深まったか」「深まらなかったか」?

過去の記憶や資料、振り返りジャーナルなどを読んで、少し考えてみてください。

四択から選んでください。

「深まった」かを確認める

以下の質問に答えてください。

2. そこでいう「深まり」「深まらなさ」の背景には、あなたのどんなことを重視する考え方がありますか？

(あなたにとっての「学びの深まり」とは何ですか？)

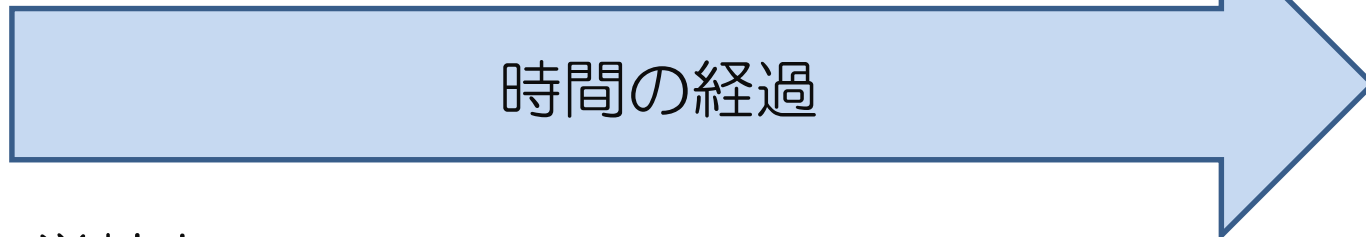
3. 今後、あなたはどうすべきか？

改めて、教育史的な理解って、 授業作りに役立つだろうか？

【過去】
起源
当初の理念

現代 = 最新 = 最善？

【今】
新学習指導
要領へ



山びこ学校と
初期社会科

たのしい授業
とは？

学問の教育か？
社会の教育か？

改めて、教育史的な理解って、 授業作りに役立つだろうか？

何度も繰り返される、「主体的・
対話的で深い学び」の歴史

その中で、
何が原因で失敗したのか？
今は何が決定的に違うのか？
過去から学ぶべきことは何か？

などに注目することも大切

本の表紙
(授業時のみ)

小針誠(2018)『アクティブ・
ラーニング 学校教育の
理想と現実』

改めて、教育史的な理解って、 授業作りに役立つだろうか？

討論の最中に、皆さんがよく言っていた通り、

「授業作りに正解はない」のだとすれば、

(周りがどうこうではなく)「自分が社会科教師

としてどうあいたいか」がとても大切になる。

歴史を学べば、「自分はどうあいたいか？」を

繰り返し考えられ、自分の軸作りの基盤になる。

【講義】教科書記述の分析 の視点について

公民教科書の事例①

公民「行政の仕組みと内閣」の「議院内閣制」の場合

立法と行政の関係については、大きく分けて議員内閣制と大統領制という二つの仕組みがあります。例えば、アメリカの大統領制では、国民は立法を行う議会の議員と行政の長である大統領を別々に選挙します。これに対して、議員内閣制を採る多くの国では、国民が立法を行う議会の議員を選び、その議会在行政の中心となる首相を選びます。

日本は議員内閣制を採用しています。内閣は国権の最高機関である国会の信任に基づいて成立し、国会に対して連帯して責任を負います。衆議院の総選挙が行われたときは、必ず内閣が総辞職し、選挙の結果を踏まえて内閣総理大臣が国会によって指名され、新しい内閣が作られます。(p.89.)

【ぎもん・つっこみ】
なぜ、二つの異なる仕組みが存在するのか？

【ぎもん・つっこみ】
なぜ、日本は議員内閣制を選んでいるのか？

本の表紙
(授業時のみ)

東京書籍『新編：
新しい社会 公民』

公民教科書の事例①

公民「行政の仕組みと内閣」の「議院内閣制」の場合

自由主義国家の政治体制には議員内閣制と大統領制があり、立憲君主制で比較的長い歴史をもつ国は議員内閣制を採ることが多い。一方、革命の結果、君主を置かずに政治を行う共和制をとる国や、かつての植民地や旧共産圏で民主化のあとに短期間で国家を形成した国は、大統領制を採ることが多い。(p.135.)

【ツッコミ】
なぜ、二つの説明の
ような傾向が
あるのか？

【ツッコミ】
なぜ、日本は
議員内閣制を
選んでいるのか？

本の表紙
(授業時のみ)

帝国書院『ライブ
現代社会2017』

資料集を読めば解決
するという話でもない。
授業者自身の教材研究
が求められる。

公民教科書の事例②

「選挙の課題①棄権の増加」の場合

教科書ページを転載

東京書籍『新編：
新しい社会 公民』

本の表紙
(授業時
のみ)

選挙の課題①棄権の増加

今日の選挙の課題として、選挙に行かない棄権者が多いことが挙げられています。棄権が増えている原因の一つとして、「選挙に行ってもなにも変わらない」という無力感や、「政治家は信頼でいない人が多くなったことが指摘されています。しかし、多くの人が選挙に棄権すると、一部の人たちによって政治の大切なことが決められてしまうことになります。近年では、有権者が投票しやすいように、投票日前に投票できる期日前投票の制度も整えられています。」(p.78.)



公民教科書の事例②

「選挙の課題①棄権の増加」の場合

教科書ページを転載

しかし、多くの人が選挙に棄権すると、一部の人たちによって政治の大切なことが決められてしまうことになります。 (p.78.)

ホント？



公民教科書の事例②

文献や書籍、インターネットで調べてみる。

著書より図表を転載

著書より図表を転載

選挙のとき、候補者は、「若者を活かす街づくり」と訴えるよりも、「お年寄りが安心して暮らせる街づくり」と訴えたほうが当選する確率が高いのです。(p.25.)

本の表紙
(授業時のみ)

森川 友義(2009)「若者は、選挙に行かないせいで、四〇〇万円も損してる！？35歳くらいまでの政治リテラシー養成講座」より

例えば、「なぜ若者は選挙に行かないのか？」よりも、「**(多くの損を被るにも関わらず)**なぜ若者は選挙に行かないのか？」と発問する方が、学習者も疑問に思う可能性が高い。**(認知的不協和)**

暗記学習にしないためにも、 教師が教科書内容に疑問を持つことが大切

教師も理由を説明できない内容が教科書に書かれており、生徒もその因果関係や解釈が抜け落ちた(不明瞭な)説明に腑に落ちない。実は、そんなことが実は起こりがち。

だからこそ、生徒は、用語を暗記で丸のみするような覚え方になってしまう。

社会科教師は、教科書内容を自らが「なぜ？」「ほんと？」の「ぎもん・つっこみ」の視点で吟味して、独自に探究をする必要がある。

⇒結果的に「主発問」を見つけることに繋がる。

次回までの課題についての説明(重要)

次回の授業までに、別添資料を読んだ上で、

「ぎもん・つっこみ」記録シートを埋めてきてください。

**分からない点などがあれば、いつでも質問・連絡
してください。**

※グループと指定範囲を決めます。

「振り返りジャーナル」の時間

テーマを自分で設定すること

**※必ず、一番上の行に「～～？」という、
問いを立ててから書き始めてください。**

**※それ以外の感想なども
プラスして書いてOKです。**

第8回 社会科・公民科教育法 1 社会科主題史(4)：当事者としての「社会科主題史からの学び」を振り返る

氏名 () 所属学部・学科 ()

1. マインドマップを書いてみる

【記入欄】

社会科らしい授業とは？

使ってほしいキーワード一覧

初期社会科	山びこ学校	楽しい授業	わかる授業
公民的資質	見方・考え方	学問	スパルタクスの反乱

2. 自分にとって「深まった」かを言語化する。

	深まったか？	そこでいう「深まり」「深まらなさ」の背景には、あなたのどんな考え方がありますか？	今後、あなたは、どうすべきだと思いますか？
あなた	以下のいずれかに丸を してください。 とても深まった やや深まった 少し深まった あまり深まらなかった		
グループの人			

※空気を読んだり、同調圧力を気にするな！

【課題の説明】 第 8 回の社会科・公民科教育法 1 の課題について

○課題の趣旨

第 9 回目の授業では、グループに分かれて教科書分析をして行きたいと思っています。具体的には、次週の授業では、同じ指定範囲を任された人とグループを組んで、お互いの「ぎもん・つっこみ」を共有・吟味してもらいます。その際には、「だれの『ぎもん・つっこみ』が深いものなのか？」を吟味してもらい、グループとしての上位 5 つの「ぎもん・つっこみ」を厳選して欲しいと思います。

それに先立って、指定を受けた教科書ページに関して、5 つ以上の「ぎもん・つっこみ」を事前に挙げてきて欲しいと思います。なお、「ぎもん・つっこみ」に関しては、問いを立てるだけで OK なので、自分が立てた問いに対して、現時点で答えられなくても全く問題ありません。

○「ぎもん・つっこみ」を見つける方法の具体例

さて、教科書記述から「ぎもん・つっこみ」を見つける方法について説明します。例えば、東京書籍『新しい社会 公民』の p.89 には「議院内閣制」という項目の中に以下のような文章が書かれています。

立法と行政の関係については、大きく分けて、議院内閣制と大統領制という二つの仕組みがあります。たとえば、アメリカの大統領制では、国民は立法を行う議会の議員と行政の長である大統領を別々に選挙します。これに対して、議院内閣制を採る多くの国々では、国民は立法を行う議会の議員を選び、その行政の中心となる首相を選びます。

日本は議員内閣制を採用しています。内閣は国権の最高機関である信任に基づいて成立し、国会に対して連帯して責任を負います。衆議院の総選挙が行われたときは、必ず内閣は総辞職し、選挙の結果をふまえて内閣総理大臣が国会によって指名され、新しい内閣が作られます。

もし内閣の仕事が信頼できなければ、衆議院は内閣不信任の決議を行います。内閣不信任決議が可決されると、内閣は、10 日以内に衆議院の解散をするか、総辞職しなければなりません。このように、衆議院の内閣不信任決議と内閣の衆議院解散によって、国会と内閣は互いに抑制し合い、均衡を図っているのです。

この文章に対して、「ぎもん・つっこみ」を入れてみるとこんな感じになります。太く強調したのが、私の「ぎもん・つっこみ」です。

立法と行政の関係については、大きく分けて、議院内閣制と大統領制という二つの仕組みがあります。**(本当に二つしかないのですか?)**たとえば、アメリカの大統領制では、国民は立法を行う議会の議員と行政の長である大統領を別々に選挙します**(アメリカはなぜ大統領制をとるのですか?)**。これに対して、議院内閣制を採る多くの国々では、国民は立法を行う議会の議員を選び、その行政の中心となる首相を選びます**(なぜこのような両者の違いが生まれるのですか?)**。

日本は議員内閣制を採用しています**(日本はなぜ議院内閣制を採用しているのですか?)**。内閣は国権の最高機関である国会の信任に基づいて成立し**(信任って言っても、単に多数決でしょ?)**、国会に対して連帯して責任を負います。衆議院の総選挙が行われたときは、必ず内閣は総辞職し、選挙の結果をふまえて内閣総理大臣が国会によって指名され、新しい内閣が作られます。

もし内閣の仕事が信頼できなければ**(仕事が信頼できないってどういう状況のことを指すのですか?)**、衆議院は内閣不信任の決議を行います**(衆議院の中で、誰が決議を提案するのですか?)**。内閣不信任決議が可決されると、内閣は、10 日以内に衆議院の解散をするか、総辞職しなければなりません**(なぜこの二択が与えられているのですか?)****(頻繁に内閣不信任決議が可決されたら、政治が不安定になりませんか?)**。このように、衆議院の内閣不信任決議と内閣の衆議院解散によって、国会と内閣は互いに抑制し合い、均衡を図っているのです**(実態として、本当に国会と内閣は、均衡を保っているのですか?)**。

こんな感じです。皆さんには「ぎもん・つっこみ」を本文に直接記入するのではなく、「『ぎもん・つっこみ』記入シート」に書いてもらう予定です。

なぜ、「ぎもん・つっこみ」を書き出すのか？

なぜ、あえてこのような「ぎもん・つっこみ」を皆さんに書き出してもらおうのかというと、理由は二つ挙げられます。

第一に、こういった「ぎもん・つっこみ」に皆さん自身が答えられないと、教科書の内容を「深く理解している」とは言えないと私は思うからです。当然ながら、一問一答的な知識だけでは、これらの「ぎもん・つっこみ」には答えられません。また、一番マズいパターンは、こういった「ぎもん・つっこみ」自体が思いつかないという状況です。ぎもんが湧かないと、そもそもの追究が始まらず、主体的な教材研究ができません。これを機会に、ぜひ教科書を批判的に読み込む習慣をつけて欲しいと思います。

第二に、子どもが教科書記述を読んだ時に、どこで理解につまづく可能性があるのかをイメージすることができるからです。教科書記述を一切理解することなく、丸ごと飲み込むように暗記すれば話は別なのですが（そしてそれは悲しいことなのですが）、仮に教科書内容を論理的に理解して読もうとした場合、先に挙げた「ぎもん・つっこみ」が理解の障害になる可能性が高いと思います。逆に言えば、こういった「ぎもん・つっこみ」が浮かばない子どもは、教科書記述を何となくなぞり読みして「分かったような気になっているだけ」というリスクがあります。その意味でも、授業者が教科書に対して、「ぎもん・つっこみ」を書き出しておくことは大切な作業だと思います。

ぎもん・つっこみの「深い・浅い」について

今回の授業では、「ぎもん・つっこみ」の「深い or 浅い」を吟味してもらいます。「深い」「浅い」の基準に関しては、例えば、一問一答や用語の定義を聞くだけのような「ぎもん・つっこみ」は浅いと思います。具体的には、「国権の最高機関って何ですか？」とか「総選挙って何ですか？」といった「ぎもん・つっこみ」は浅いです。定義的な内容は、少し調べればすぐ答えられるからです。

それに対して、内容の本質を問うような「ぎもん・つっこみ」は深いものと言えます。例えば、先に示した「ぎもん・つっこみ」の中で「**なぜこのような両者の違いが生まれるのですか？**」とか、「**日本はなぜ議院内閣制を採用しているのですか？**」とか、「**実態として、本当に国会と内閣は、均衡を保っているのですか？**」あたりは、全体の内容を深く理解していないと答えられない「ぎもん・つっこみ」なのではないかと思います。皆さんにはぜひ、後者のような「ぎもん・つっこみ」を期待したいと思います。

○その他の留意点

また、「ぎもん・つっこみ」は教科書記述だけに対してではなく、教科書に載っている図表なども含めた全体に対して行ってください。仮に教科書記述に書かれていなくても、図表などにその説明が書かれていて、それを読めばあなたの「ぎもん・つっこみ」が解消されるのであれば、それは「ぎもん・つっこみ」には該当しません。

また、繰り返しになりますが、今回の課題となっている「ぎもん・つっこみ」に関しては、問いを立てるだけで OK なので、自分が立てた問いに対して、現時点で答えられなくても全く問題ありません（答えられるか否かより、問いを立てられるか否かの方が重要です。）。

説明は以上です。指定された教科書ページ 2 ページ分を読んで、あなたの思いついた「ぎもん・つっこみ」を別紙『「ぎもん・つっこみ」記入シート』に記入して、今回の授業に持ってきてください。「ぎもん・つっこみ」は最低でも 5 つ以上は書いてきてください。多い分には全く問題ありません。また、グループのメンバーとは現時点では話し合わず、独力で課題をこなしてください。

課題の趣旨が理解できなかったり、疑問がある人は、いつでも斉藤まで連絡もしくは研究室訪問をしてください。

「ぎもん・つっこみ」記入シート

記入者名 (_____)

該当箇所 (ページ、行)	「ぎもん・つっこみ」の内容
(例) 89 ページ、上から 5～6 行目の記述	(例) 本当に二つしかないのですか？